

府中市総合計画市民検討協議会意見交換記録

平成 24 年 6 月 30 日（土）
北庁舎 3 階第 1・2・3 会議室
午前 10 時 15 分～午前 10 時 45 分

委 員 行財政運営部会での意見として、市政と市民の懇談会の場を増やしていただきたいと思います。
現状では、市長との懇談会と言いますと、事前に質問を受け付け、それに回答する場面が多く見受けられますが、これを積極的な討論の場、意見を聞く場として小さな場でも結構ですので、設けていただければと考えています。

市 長 私も市長になろうと意思を固めたときから、まちのあり方について市役所が決めたことを進めるだけではなく、市民の皆様との対話を通じて必要なニーズを反映して事業を進めるといった成熟社会が必要だと思いました。どのような形で対話をするのが一番望ましいのか、まさに今お話しされたように、自由に討論できる機会が多ければ多いほど良いと思います。

3 月議会、平成 24 年度の当初予算を審議する議会で、前市長によって編成された予算でありましたが、6 月議会では私が初めて手がける補正予算でありました。その中で、文化センターの自主グループの代表や、現役の協議会の役員の方を中心に 10 月、11 月に 11 館全てで約 2 時間程度の「市長と語る会」を設けることを認めていただきました。そこから入って行って、その後どういう形がいいのか考えながら毎年こういった事業を実施していきたいと考えております。

委 員 府中に住み 50 年になります。我々は府中市はとても住みよいと評価しています。平成 22 年度の市民意識調査で、住み良いと答えた市民が 44.1%、まあまあ住み良いと答えた市民が 43.7%。それを合計して 87.7% 超えているので、市民の満足度が高い。それならばより上を目指すべきだということで、「もっとさらに」をキーワードにしてきました。

しかし、逆に考えると、まあまあ住み良いが 40% を越えているということですので、本当に満足度が高いのかと考えることもできます。これからは、声なき声、何となく住んでいる方々の意識をどう捉えるかというところにも気を配っていただきたい。それには先ほど市長がおっしゃられたような直接市民との対話を進めていただきたいと考えております。

また、先ほどの各部会からの報告にもありましたが、非常に論議する点が多岐に渡るので 6 ヶ月間というのは短かったと感じています。

委 員 市民の意見を聞く会への参加者が少ないということについて残念だと言いましたが、いろいろ調べてみると、関心がないわけではなく、出ず嫌いだと思います。私は、NPO の府中かんきょう市民の会という環境を主体とした活動をしています。市政に対しての市民の関心は高まっていると思います。

府中市の平成23年度のアンケートでも、環境部門6項目について意見が173件も出ています。決して市民が意見を持っていないわけではなく、出づらいのか、出るのが嫌いなのか、その辺に課題があると思いますので、市政に関心を持つような対策を講じていく必要があると思います。

府中の2009年度の緑の基本計画改正の検討会に参加しましたが、なぜ府中市の市民は住み良いかという、市内の緑に対する見方の違いがあると思います。どこに緑があるかという、府中市のケヤキ並木、大国魂神社、その他多くの緑が残っています。多摩川も住み良い緑の關係に大きな役割を果たしていますし、多摩川の向こうの多摩市の稜線の緑が借景としてインプットされており、「緑が豊かで住みよいまち」だと思われています。緑の観点から考えると、北の方は緑が少なく、多摩川では緑の多いといった濃淡が見受けられます。

これからいろいろな面で市民パワーを発揮して、市民と行政が色々成し遂げていく協働關係が重要であると常々感じています。

委 員 12月冬からの半年は早かったと感じましたし、このような会に参加させていただいたことを感謝しています。

一つの文章に、どれだけ重みがあるのか。皆さんと検討する中で、家庭の中の話をしただけですが、私たち自身もよりよい府中市のために何ができるか真剣に考える良いきっかけになりました。

提言を計画に反映していただければと思います。

委 員 市長のメールによるコラムがありますが、一体どれくらいの市民が登録しているのでしょうか。防災の話ですが、ライフラインが止まったときにFMのラジオで情報発信ができればいいと思います。ケーブルテレビでもやっているの、難しいかと思いますが、それでもメールを皆さんが登録していれば、それなりの情報をもらえるのかと思います。予算作りもこれからという話を聞きましたので、聞いてみたいと思います。

市 長 市長コラム以外にも、防災、教育、福祉様々な分野でメールを発信しています。市長コラムについては月3回発信をしようと合間を縫って文章を考えながら、私の思う事柄、あるいは公務に関わる動きについてお知らせをさせていただいて、受け取った市民の皆さんが、市長は、今日、どこにいるのかということを感じていただければいいなと思い発信することになっています。

毎月3回、市の広報紙が出ます。前市長は、11日号に市長コラムを掲載されておりましたので、私も4月から11日号に掲載することにしました。月に4回市民の皆さんに私の思うこと、行動などについてお知らせできればと思っております。週に1回程度はということになるわけですが、月によっては1週間に2回発信したり2週間空いたりすることもあるかもしれません。

各部、各課様々な事業があり、特にイベントや安全安心に関わることについては、発信が多くなるのではないかと考えていますが、委員さんご指摘のようにこれからメールという道具は、いざ災害が起きたときに一方通行ではありますが、有効な手段になろうかと考えておりますので、このことを始めに今後の危機管理体制などについてもしっかりと取り組み、不足のところについては充足していくように努めていきたいと思っています。

委 員 私はまだ社会人として未熟な若い世代かと思いますが、この会に参加させていただき、市政に対し前よりも興味が出ました。若い世代が市政にかかわれる場、むしろ利用してもらえるような場が増えたら良いのではないかと思います。そうすることで新たな、色々な世代のコミュニティが形成されると思っていますので、この様に参加できる機会を増やしていただければと思っています。

委 員 今回の会は、公募での初めての参加者が多く、今までの他の会とは違うと感じました。府中市としては画期的なことだと思います。

背景としては、市民の皆さんが震災によって地域に目を向けているのではないかと思いますので、府中市としても皆さんが関心のあるこの機会に、色々な場で皆さんの意見を聞く場を増やしていただきたいと思っています。

その 1 つとしてこの市民検討協議会自体が上手く行ったことを外に向けてPRしていただきたいと思います。今までと違う形で良いものができたというのを市民に返していただきたいと思います。部会で終始話に出ていたのが、市民とのキャッチボールが必要ということです。

皆さんが関心を持ってくださる部分があると思いますので、市民に返されていないと、関心を持ってないということが繰り返されてしまう気がします。これだけの方たちが参加しているということができたので、この成果を市民に返すことが一歩と考えています。

委 員 提言書の最終版として拝見させていただきました。半年でこれだけの人が集まり議論されたということで、相当エネルギーがかかったと思います。部会での意見は似ている部分もあります。

また、ある部分は連携していかなければならないものもありますので、市として縦割りではなく連携して取組んでいただきたいと思います。

委 員 簡潔にまとめられた提言書ですが、この言葉に至るまでの道のりの重さというものを感じていますし、また、まとめて下さいました市の職員にはご苦労いただき感謝しています。

この度、高野市長さんと友好都市交流としてウィーンに行ってまいりました。私たちの部会では、友好都市交流が課題となっており、その視点からもウィーンを見させていただきました。

ウィーンというまちは、人間にとって何が大事かを常に考え、それを具現化しているまちだと感じました。

以前、府中の文化振興計画の検討に参加させていただきましたが、その折の委員長が「題名のない音楽会」のプロデューサーの牛山剛さんでした。ウィーン少年合唱団を招致した折、指導者に話を聞いたところ、良いクラシックの聞き手を育てるために少年団を育成しているとのことでした。

私も芸術文化に関わるNPOで活動しておりますのが、文化振興とは良い聞き手、見手を育てることであると考えています。

府中市には、博物館、美術館等があり、これからの子供たちを、よき聞き手、見手として育てることが文化振興に繋がると思いました。この委員会に参加させていただきましたことを心から感謝しております。